

所長だより第50号 平成29年 1月 6日

# 希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに 学んで世界の 明日をみる」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<http://www.uminoko.jp/>

## 「ウォークラリーで街のよさを発見する」

【所長 青木 正士】



フローティングスクールの寄港地活動として、よく取り組まれているウォークラリー。1日目他校の子どもたちと初めて顔を合わせ、まだお互いのことをあまり知らない状態で昼食や船内見学を行い、ようやく少しずつ話ができる段階でウォークラリーが実施されます。ウォークラリーを行うことでさらに親密な状態になるとともに、互いに協力しなければ達成できない課題やルールの設定により、班の団結力や帰属意識を高めることにつながります。

フローティングスクールの開始当初は、オリエンテーリングやコマ地図でのウォークラリーが主流で、班の仲間が団結し、道を間違えずに戻ってくることそのものが課題となる取組でした。故に一般の道路に出ることなく実施が可能な豊公園のウォークラリーがよく行われていました。設定時間で戻ることができるかによるポイントの差が大きかったのです。

ところで、現在のウォークラリーは道を間違えることのないよう、絵地図のような詳しい地図を用意してチェックポイントを巡り、問題を解いて町探検をするタウンウォークラリーがよく行われています。引率者が道を間違えないよう要所に立って道を案内することも多くみられます。ウォークラリーでのねらいが移り変わり、団結力の向上中心から歴史や伝統文化など、その街のよさをを見つけることに重きがおかれるようになっているのです。その点、三井寺ウォークラリーや開校当初行われていた彦根城ウォークラリーは、まさしく歴史的遺構の中を巡る貴重な体験活動となっています。

しかし、せっかく貴重な学習の機会を設定しながらも、チェックポイントでの問題は従来のままで単にポイントを競うゲームの状態に留まっていることが多く、他のびわ湖学習とのつながりは考慮されていないようです。問題の内容を根本的に見直すこともよいでしょうが、例えばゴールする時にこの街（施設）で見つけたよさを出し合ったり、これからの学習に生かしたいことをまとめたりする活動を加えれば、つながりの意識が生まれてくるように思います。

びわ湖だけを対象とした環境学習から、こうした地域の歴史や文化などから関連付けて考えられる幅広い環境学習の展開により、アクティブな学びが深まることを期待しています。